横浜市立みなと赤十字病院
YOKOHAMA CITY MINATO RED CROSS HOSPITAL

地域医療連携室だより Vol.2

みなとからの風

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3-12-1／TEL 045-628-6100㈹／FAX045-628-6101㈹・http://www.yokohama.jrc.or.jp

●発行：2007年3月　地域医療連携室

Contents

■特集　DPC …… 1
■みなとトピックス …… 2
■災害医療対応訓練 …… 2
■医療機能紹介Part2-1（緩和ケア）… 3
■医療機能紹介Part2-2（精神科）… 4
■みなとセミナー …… 4

病　院　理　念

赤十字精神のもと、患者さま中心の良質な医療を提供して、地域の健康増進に貢献する

病 院 の 目 標

1．赤十字精神に基づく患者さま中心の医療を提供する
2．医の倫理に基づき安全かつ良質・効果的な医療を提供する
3．医療を通じて地域の健康に貢献する
4．プライバシーに配慮し、個人情報を保護する
5．災害救護、福祉活動などへ積極的に参加する
6．人間性豊かな医療人を育成する

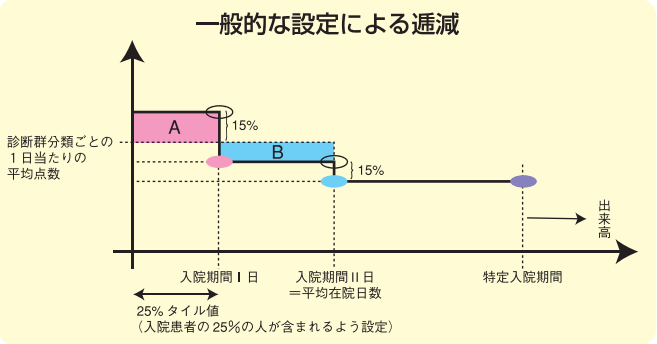
特集　DPC

みなと赤十字病院はDPC（診断群分類）対象病院です！

当院は急性期医療を提供する病院です。急性期医療に対する包括点数評価はH15年4月にスタートしており、当院もH18年5月からDPC対象病院となりました。DPCによる包括点数評価では、それぞれの疾患治療の入院日数が定められており、それを過ぎて入院を続けると、病院に支払われる診療報酬が15%削減されるシステムとなっています。例えば、「肺炎」は以下の表のような入院日数と診療報酬の仕組みになっています。

急性期病院には、効率的に適切な医療を行い、患者様をできる限り早く地域の生活に戻すことが義務付けられています。これまでの入院治療は、完治するまで入院を続ける傾向がありました。このことが、諸外国に比べ日本の在院日数が非常に長くなる原因でもあります。DPC対象病院は、入院目的が達成されたらすぐに退院していただき、「かかりつけ医」と連携して切れ目のない医療を提供していくことを目指します。これまでのスタイルに慣れておられた先生方はご不便を感じられるかもしれませんが、DPCのシステムをご理解いただき、当院へのご支援・ご協力をお願い致します。登録医の先生方と手と手を組んで、市民にとって効率的かつ安心な医療システムを提供していきたいと願っております。

院　長　西　岡　　清



手術	人工呼吸器	副傷病	入院期間（日）		点数（点）			特定入院期間（日）
			A	B	入院期間A日未満	A日以上B日未満	入院期間B日以上	
なし	なし	なし	5	10	2865	2192	1863	20
		あり	9	17	3121	2307	1961	37
	あり		10	25	4095	3240	2754	64
あり	なし	なし	12	31	3102	2463	2094	79
		あり	22	44	3189	2376	2020	91
	あり		24	51	4881	3702	3147	115

副傷病
呼吸不全（その他）
心不全
2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシス除く）
敗血症
ショック、他に分類されないもの

みなとトピックス

心臓血管外科

―90歳男性の大動脈解離、緊急手術に成功―

心臓血管外科では、2005年5月から手術を開始し、現在医師スタッフ3名と後期研修医1名の構成で日夜手術等の診療をおこなっております。

昨年年末には、救急車で運ばれた市内在住90歳男性の急性大動脈解離の緊急手術に成功しました。7時間に及ぶ手術では、体温を20度まで冷却して血液循環を完全に止め、循環停止下で上行大動脈と弓部大動脈を人工血管に変える大手術でしたが、術後合併症も無く、手術後約3週間で元気で退院されました。病弱な奥様を助けるのは自分しかいないと、早期退院に向けての強い意思がご本人にあったことも功を奏しました。(写真は、退院前に心臓外科や7C病棟のスタッフと一緒に撮影したものです。)

心臓の手術症例は、2005年が34例、2006年が91例、血管手術も含めた総手術数は200例を越えました。

弁膜症での僧帽弁形成術や心拍動下の冠動脈バイパス術、さらに大動脈解離等の緊急手術と、心臓大血管全ての領域の難易度の高い手術で、高い成功率を誇っております。

外来診察日：部長　田渕典之、毎週金曜日午後。
　　：医長　吉崎智也、毎週月曜日午後。

(記：心臓血管外科部長　田渕)

田渕部長

災害医療対応訓練の報告

3月6日（火）災害医療対策訓練を実施しました。今年は、勤務者の少ない休日に、三浦半島を中心とした大規模地震が発生したという想定で行いました。地震発生後直ちに院内の状況を把握し、居合わせた職員と共に一般の人にもボランティアとして協力をお願するなどして訓練を進めました。

トリアージエリアを玄関前と病院内の2段に設定し、特殊メイクを施した模擬患者の身元確認と、医師による判定で、緊急度の高い順にレッド、イエロー、グリーンの3つの治療エリアに搬送しました。

医療機能紹介 Part2-1

緩和ケア

横浜市立みなと赤十字病院・緩和ケア病棟は、進行癌患者を対象に、癌性疼痛などの各種症状緩和とターミナルケアを主な役割として平成17年5月1日より運営しています。専従医師2名、看護師22名を中心に、精神科医、臨床心理士、薬剤師、栄養士、リハビリテーションスタッフ、ソーシャルワーカー、クラーク、ボランティアなどと協力しながら、病棟を運営しております。また、総合病院の利点を活かして、必要時には適宜、専門各科へ併診を依頼しています。開棟から1年半が過ぎ、200名以上の患者様を見送りました。

緩和ケア病棟　スタッフ紹介

今後とも、地域に支持される病棟を目指して奮励努力していく所存です。なお、本病棟の入院は紹介・予約制です。ご利用の希望がおありでしたら、担当医から必要文書を用意していただき、まずは患者様かご家族に緩和ケア外来を受診していただいております。

（記：緩和ケア　副部長　黒田）

また、外来カウンター前に仮災害対策本部を設置し、患者受入状況の把握や外部機関との連絡調整、安否確認、駆けつけた職員、ボランティアの受け入れなどもシミュレーションしました。

今年も訓練には患者役や一般来院者の案内・誘導などに防災ボランティア40名、病院ボランティア30名など多くの方にご協力をいただきました。

（記：赤十字事業推進課長　白崎）

医療機能紹介 Part2-2

精神科

精神科は現在常勤医２名で完全予約にて外来診療を行っています。おかげさまで順調に患者数も伸び、毎週水曜の「もの忘れ外来」は１ヶ月先まで予約が入っています。中でも近医からのもの忘れ外来への紹介が増えてきており、当院で鑑別し、また地域へお戻しするという連携もできつつあります。来る５月には念願の病棟が立ち上がることになりました。これに向けての施設面の改修もほぼ終了し、現在は実際の運用に向けたシステムを含むソフト面の充実に努めています。病棟開棟後は、病病・病診連携を中心としての運営を行う予定です。４月以降常勤医の追加採用も決まり当面は５人体制で運営しますが、精神科３次救急が始まる秋にはなんとか７人体制にしたいと思っています。温かいご支援をお願い申し上げます。

（記：精神科部長 石束）

みなとセミナー

場所：横浜市立みなと赤十字病院　3階大会議室

第8回　2007年4月17日（火）19：00～20：30

「総合病院における精神科医療」

●みなと赤十字病院精神科の医療について　精神科部長　石束　嘉和

●特別講演　総合病院精神医療の現状と今後への期待

横浜南共済病院　神経科部長　藤原修一郎 先生

第9回　2007年5月10日（木）19：00～20：30

「アレルギー勉強会」アレルギーセンター

●特別講演　食物アレルギーへの対応について

国立病院機構相模原病院　臨床研修センター
アレルギー性疾患研究部　海老澤元宏 先生

●食物アレルギー診療における栄養士の役割

国立病院機構相模原病院
栄養士　南谷典子 先生

～多数のご参加をお待ちしております～

※最新の情報についてはホームページをご覧下さい。
また、ご意見ご要望がございましたら地域医療連携室までご連絡下さい。
連絡先　TEL. 045－628－6365 ／ FAX. 045－628－6367
ホームページアドレス　http://yokohama.jrc.or.jp